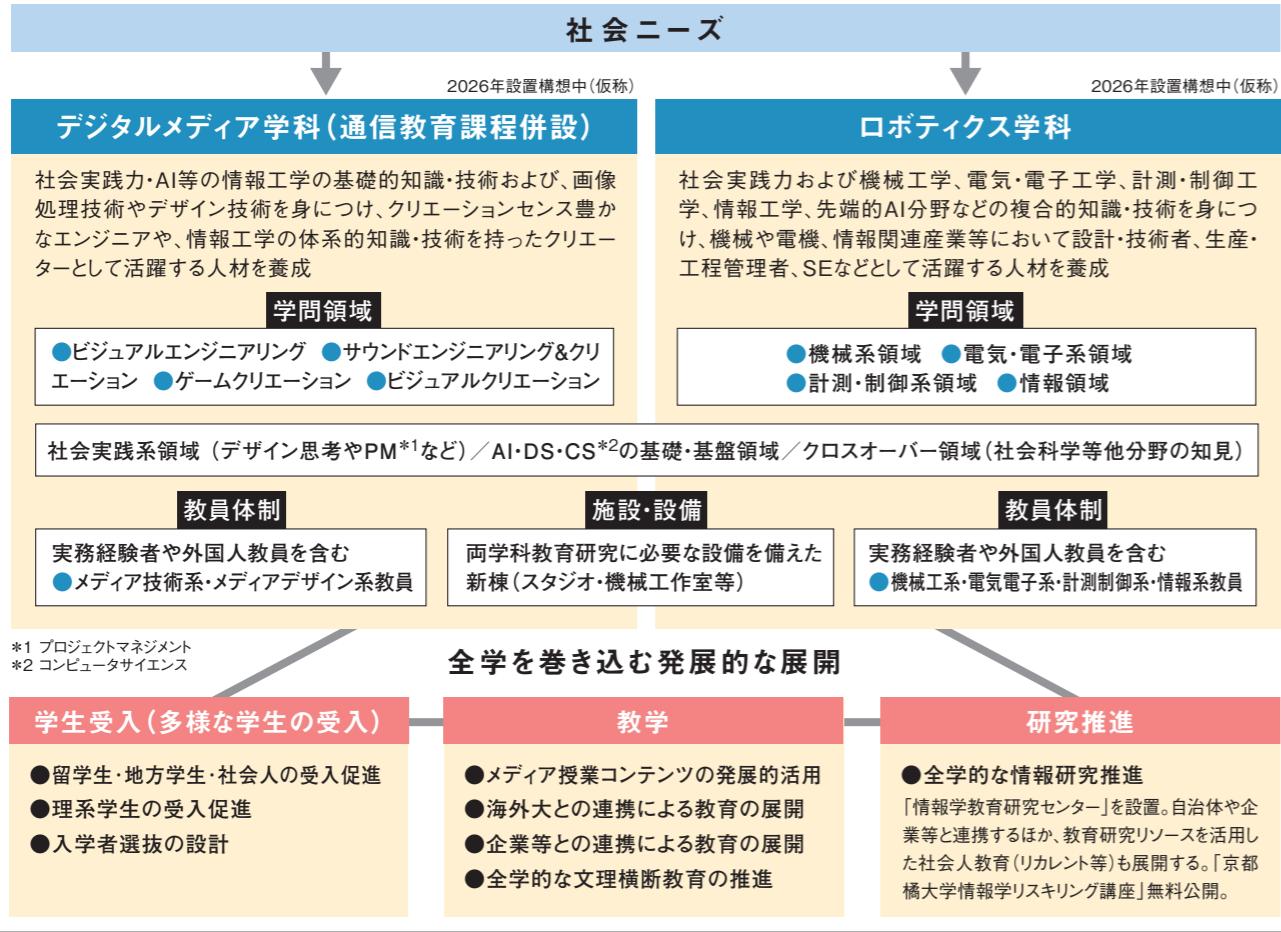




キャンパス／京都市京都市 学生数／8,210人 創立／1902年(1967年大学設置)  
建学の精神／力を実業教育に注ぎ、将来自営独立の実力を得しめん  
学部／国際英語、文、発達教育、総合心理、経済、経営、工、看護、健康科学  
大学院／文学、現代ビジネス、看護学、健康科学、情報学(2024年4月開設予定)  
THE 日本大学ランキング2023／201+位

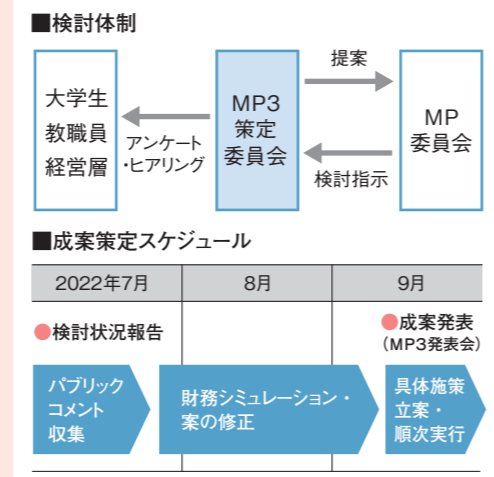
## 工学部の新学科設置を起点とした全学的改革により、社会が求める教育価値の提供を実現



## 注目 矢継ぎ早の学部設置を可能にした意思決定にスピードをもたらすしくみ

日比野学長は他大学から、「なぜこんなに早く改革が進むのか」と頻りに尋ねられるという。2022年に策定したMP3では、「MP委員会」の下部に「策定委員会」を組織。そこで計画の原案をまとめ、「MP委員会」が具体的検討および承認を行う形とした。検討状況報告会でパブリックコメントを収集後、財務シミュレーションを実施。策定委員会設置から成案発表まで3か月間だった。一方、教員の声は各学部長がまとめ、部局長会に提出するほか、策定委員会がヒアリングを通じて集約する。直接的に教授会に諮るプロセスを経ずに、学内の意見を採り入れるしくみが成り立っている。もう一つ、職員組織にも改革スピードを上げる秘訣がある。学部事務を担当する職員は全て、教学事務部という組織に所属する。各職員が複数学部を担当し、オフィスも1か所にまとまっている。「学部ごとに事務室が分かれていると、意思決定も学部ごとになり、協議に時間がかかる。事務組織もクロスオーバーさせることにより、学部単位ではなく大学単位、法人単位で計画を考える姿勢が浸透した」(日比野学長)。

### 第3次マスタープラン(MP3)の策定



# 教育改革は“日常業務”、社会ニーズを予測して学部拡充へ

CASE STUDY

## 京都橘大学

2005年以降8学部15学科を開設するなど、躍進を続ける京都橘大学。社会が求める教育の提供により自学の価値を高める施策が、国の動きに同調し始めた。



学長 日比野 英子

ひびのえいこ ●1986年同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得退学。医療機関等の心理臨床に従事後、3大学での教授職を経て、2012年京都橘大学健康科学部心理学教授。同学部長、心理臨床センター長、学術情報部長を経て、2019年より現職。

**建学の精神に立ち返り 経営危機から回復**

本学が現在、改革に邁進できている根底には、1967年に女子大学として開学後、わずか数年で経営危機に陥った経験があります。その要因の一つが、社会的需要の少ない学部の教育を提供していたことでした。再建にあたり、教職員が顧みたのは、前身となった手藝学校設立時の建学の精神「力を実業教育に注ぎ、将来自営独立の実力を得しめん」。時代に必要とされる人材の育成が、学園の使命であると、あらためて肝に銘じたのです。

以来、私たちにあって、社会変化に応じた教育改革が、日常業務となりました。特に2005年度の共学化以降は、教育理念に「臨床の知」を掲げ、社会ニーズに応じて多様な分野の学びを拡充させ

ていきました。

直近に行った大きな改革が、2021年度の経済、経営、工の3学部同時設置です。人口減少、デジタル化の遅れによる日本の競争力低下を目的に、IT、AIに通じた人材ニーズを強く認識。それらの分野の「情報専門人材」と、「基本的知識とスキルを身に付けて利活用できる人材」の2方向で育成を検討しました。そして、2019年に政府が発表したAI戦略に即応する形で、情報工学の専門性と、経済、経営の実社会への応用力が作用し合う教育を掲げ、3学部を設置したのです。

企業が抱える課題に3学部の学生が合同で挑むPBLは、学内の文理横断教育、学部間の共同教育の流れを加速させました。2025年度には、IT、AIの基本知識とスキルの育成を全学に展開する教養教育改革に踏み切ります。

**成長分野の人材ニーズに応える新学科設置構想**

2021年から私も委員を務めた教育未来創造会議では、理工系分野の人材育成、リカレント教育の充実等を急務とする。提言がまとめられました。その提言を本学園のミッションとかけ合わせて策

定したのが、2023〜2027年度の中期計画である、第3次マスタープラン(MP3)です。

「学びで世界を変える」を合言葉にしたMP3改革の目玉として、\*3学科1研究科の設置を予定しています。うち、工学部の2学科「左ページ図」が、「大学・高専機能強化支援事業」に採択されました。新学科構想は、職員がたたき台をつくり、教員が整えたものの。国の支援事業の公募前から教職員が準備を進めていた学科が、応募要件に合ったという事実は、本学の動きが社会ニーズを捉えていたことの証とも言え、誇らしく思います。新設置基準の基幹教員制度も、渡りに船。クロスアポイントメントを活用して、実務家教員を多数起用する予定です。

2学科を起点に、さまざまな国・地域からの留学生の受け入れ促進、理系人材育成の活性化、社会に新たなリカレント教育像を示す通信教育課程の強化など、時代に先駆ける改革を実行します。

常に社会を見つめ、変化を予測して学部・学科を拡充してきた結果、\*3学生数1万人規模の総合大学への成長が見えてきました。これからも時代に応じて変わること恐れず、教育を通して若者が夢を持つ社会をつくっていきます。

\*1 内閣府教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について(第一次提言)」(2022年)  
\*2 工学部デジタルメディア学科、ロボティクス学科、健康科学部臨床工学科(いずれも仮称/2026年開設に向けて設置構想中)、情報学研究科情報学専攻(2024年開設予定)  
\*3 通信制含む

取材・文／見山雄介 撮影／近藤織弓